

センサー

1977年 1月号 第2号

東京温度検出端工業会 会報

巻頭言

昭和52年年頭に思うこと

副会長 林 和 夫
(林電工株式会社取締役社長)

会員の皆様あけましておめでとうございます。

昭和52年、あまりばつとしない経済状況に備えて色々秘策を練っておられることでしょう。年頭早々不景気な話で申し訳ありませんが、避けては通れない問題なので少し考えて見ましょう。

今の不況は、個人消費については、もはや買いたいもの欲しいものがあまりないことに基因すると言われていいます。戦後の窮乏からのがれるために一生懸命働いているうちに高度成長をなしとげ、何とか満ち足りて、今日では洋服、ワイシャツ、靴下に事欠く人は先づいないでしょう。同様にテレビ、冷蔵庫、カメラ、ステレオから自動車まで一通りはゆき渡った様です。そこへ石油ショック、不況、200カイリ問題など前途の不安を思わせる不安材料が多いとなると、財布の紐はますます固くなります。少々の減税などで購買慾が盛り上るとは考えられません。そうなれば、これ等の商品の生産設備も流通機構も過剰になり不況になるわけです。

そんな中でまああの業種は何だろう、将来性のある仕事は何だろう、そう言う分野にかかわりを持って働きたいと誰しもが願っているわけです。

輸出のきく商品の生産、プラント輸出に関連のある産業、住宅関連産業、子供が成人するにつれて必要とするもの余暇利用につながる手作り品、工芸品に関係した産業、産業合理化や原子力関連産業、環境保全に係わる仕事などがまだまだこれから息長く続くと思われれます。

ひるがえって我々の仕事(温度測定用センサーと計装)の将来はどうでしょう。

工業生産はもとよりその他の全ゆる分野で温度の測定と制御を必要とすると言う基本に変わりはなく、重要で有意義な仕事と申せましょう。適当に消耗することも有難いです。

しかし、当面の様相はきびしく、問題は多いです。販路にわけてもう少し具体的に考えてみます。

- ① 大企業に於ける工場の新設用と、既設々備の補用品としての要求。——この分野の販売量は大きいですが、工場の新設は当分思わしくなく、価格に於てもきびしい様です。
- ② 輸出プラントの附属として。——有望分野であるが、競争も激しい。
- ③ 中小企業の合理化に伴う要求。——今後とも堅実に伸展し、総量は大きいですが、個々の要求は細かくて手がかりあります。

自分の会社は何をねらい、どの分野で伸びてゆくかは各社で考えねばなりません。そしてどの道をとってもそれなりの競争はありましょう。新製品の開発、生産の合理化も努力の対照となります。

しかしながら受注の武器は値下げだけ、喜ぶのは需要家だけを言う様なやり方はどんなものでしょう。そんなことをしては、自社の設備改善や、研究費の総出、優秀な社員の獲得が出来なくなるのはもとより経営の維持さえあやうくなります。

はげしい競争をしながらも、時に必要性と可能性を見出したなら、節度のある助け合いやゆづり合いを行い、強くて品格のある業界として育てゆき、その中に自社の存在を見出してゆければと願うものです。

そのために、有力メーカーの集まりであるこの工業会が、よき働きの出来る団体として一層発展してゆく様心から願って年頭の御挨拶と致します。

◎貴金属の現況

株式会社 徳 力 本 店
取締役営業部長 関 根 義 夫

石の上にも3年と昔から言われておりますが、工業会も昭和52年度明けて4年目を迎えることは、会員として誠に御同慶の至りと存じます。

石油ショックから端を発し、昭和50年度は大不況、昭和51年度は国民不在のロッキード騒ぎ等々で工業会発足以来の多事多難の時期でありましたので、会長、副会長、事務局の皆様方には、まったくの石の上にも3年の思であったこと拝察致します。

11年目を迎えた本年も一般には前半は景気回復は期待薄と言われておりますが、その中で私共の携わる貴金属業界も別世界でありえませぬことは言を待ませぬ、特に貴金属の国内価格は、貴金属の海外国際相場が、即そのまま適用されておりますし、人件費、諸物価の高騰するなかで、付加価値の低さでは他に類を見ない厳しい業種の一つと思えます。

ただ昭和51年度は貴金属価格が比較的安定致しておりましたことも幸して、かつて貴金属から離れかけた需要が戻りかけた観もあります。

計測器業界での貴金属需要は金と白金族が主体となりますが、金は昭和49年の一時期グラム当たり1900円の高値もありましたが、最近ではグラム当たり1300円前後で安定した推移を示しております。これは恐らく世界的に金価格の適正値が見直されたものと推測されます。白金につきましても自由圏内での供給体勢は充分につき、今後も現状価格程度で推移するものと思えますので、昭和52年度は、エンドユーザーに於かれても貴金属を使用し易い年と思えます。また貴金属業界の一員としても、それを期待してやみません。

◎工業会の活動について

電気金属株式会社
専務取締役 豊 田 之 男

温度検出端工業会も早いもので4年目を迎えました。これは役員の皆様事務局関係各位の御努力の結果と嬉しく存じます。

昨年より会報も発行される様になり益々発展の道を歩む事は御同慶の至りと存じます。今年も講習会見学会等計画して戴きたいと思えます。

最近の経済環境は厳しいものがありますが会員の情報交換、技術の向上、製品の標準化等幅広い活動を運営して行く様、事務局諸兄、会員の皆様方と共に努力して行きたいと存じます。

併せて、会報「センサー」の充実と発展を切望致します。

◎工業会への希望

野本計器興業株式会社
取締役社長 野 本 欽 也

明けましておめでとうございます。

早いもので、工業会発足以来4年、歩一歩と着実に進展しつつある現況に、ここまで育てあげてきた会長、役員を始めとして事務局各位のご苦勞に深く感謝いたすと共にお慶び申し上げます。

今後の工業会への希望としましては、①会員の拡充(現在の会員数では、事業活動にも限度があると思われる)②関連企業、工業会および関係官庁等へのPR (PRには、見学会などが適切)③技術講習会の充実等種々あると思えます。

創刊号にどなたか、会の名称を「日本温度検出端工業会」と変えようと言うようなことが、発表されておりましたが、どうかその位の気持で今後も会の発展に意欲を遂やして下さい。年の始めなので思いつくままに勝手に書かせていただきました。どうぞご了承下さい。

尚、今後も役員諸兄の活躍を期待すると共に、工業会の隆昌を心から祈ります

会員紹介

会員各社を編集委員が訪問取材し、各社の紹介記事をお届けいたします。本号からシリーズで毎号二社ずつ、会員名簿の順番に掲載する予定です。

井上金属株式会社

創業昭和37年、早51年を迎えんとしており、本社は都内南大塚、工場は朝霞にある。社長自ら先頭に立ち少数精鋭体制で各種金属保護管、測温抵抗体の製作を主としており、その技術力と信用度は知る人ぞ知るで高評価を受けている。現在コスト低減に全力投球をしており、近々設備の具体的合理化の着手に入る予定という。販売先は業者と商社とメーカーが対象になっており、販売面での納期の問題が課題の一つとして今後に残されており、益々合理的、能率的な運営の度合いが強まり、更に業界の期待度も大きくなっていくものと思われる。特に社長は当業界に精通し、バランスある発展を常に願っており、検出端工業会としても頼もしい一員として、その動向には十分注目していきたい。

代表取締役 井上 文雄

本社 東京都豊島区南大塚3-11-4
電話 03(987)5867、(985)3356
朝霞工場 朝霞市幸町3-7-5

石福金属興業株式会社

古宮誠一社長を筆頭に社員男481名、女120名からなる資本金1億円の会社である。

営業内容は、貴金属の精製加工及び地金売買を始めとし、特殊合金の開発と歯科材料販売、貴金属理化学用品及び装身具、電機通信機部品、毒物及び劇物の製造加工などの販売を主体とする。上記の関連業務を行っている。現在は本社を東京都千代田区に置き、大阪、名古屋、九州の3つの営業所と、本所、草加、厩橋の3つの工場が稼働し、日夜躍進を続けている企業である。当業界に関連する製品として、PR熱電対はもとより、特殊熱電対分野においても種々開発に成功し、現在は日本の基幹生業である鉄鋼業界を始め高温測定標準的熱電対としても使用され、近隣諸国へも輸出しており、また、品質についても均一性、互換性、耐久性に富み、その製品と共に期待される企業である。

取締役社長 古宮 誠一

本社 東京都千代田区神田3-20-7
電話 03(252)3131(代)
本所工場 東京都墨田区亀沢2-11-11
草加工場 埼玉県草加市青柳町1,080

新入会員紹介

昨年12月7日の理事会で承認され、下記の会社が新会員として入会されました。

社名 株式会社 西林電機製作所
住所 名古屋市昭和区川名町4-11
電話 052-761-6266
代表者名 西林忠雄

会の動き

◎見学会

- 9月24日東京都立工業技術センターの見学会及び協議会を開いた。同センター側から副所長以下7名、当会員24名出席。
- 10月25日と26日に日本化学陶業株式会社の工場見学会を行った。25日夜、高石市「新東洋」にて懇親会、一泊。翌日同社本社工場、東山工場及び堺市泉北の陶邑考古館を見学。14社15名参加

◎技術講習会

11月24日五反田TOC会議室で技術講習会開催。講師榊岡製作所、佐藤常務。テーマ、IEC/SC65B、温度センサーの動向について。25名出席。

◎貴金属素線部会

12月1日、林電工(株)にて開催、6社出席、52年1月又は2月に主なディーラー、セットメーカーを含めた会合をもつことをきめた。

◎12月理事会

1. 新入会員、(株)西林電機製作所の入会を承認
2. 2月末に新年懇親会を開催することを決定
3. 2月に技術講習会(講師、(株)北辰電機製作所、小川実吉氏の予定)を行う。3月に工場見学会((株)千野製作所藤岡工場の予定)を行う。
4. 貴金属素線部会の他の各部会の積極的な運営を計る

◎統計工業計器生産実績(通産省機械統計月報による)

金額=百万円, (%)=金額の前年比

生産品目名	51年1月 ~3月		51年4月 ~6月		51年7月		51年8月		51年9月		51年7月 ~9月	
	金額	(%)	金額	(%)	金額	(%)	金額	(%)	金額	(%)	金額	(%)
工業計器	25,788	85.6	23,634	103.9	8,952	105.2	8,302	95.9	10,237	88.2	27,491	95.5
プロセス用工業計器	15,166	89.0	14,687	104.6	5,159	95.1	5,259	99.1	5,617	83.7	16,035	91.9
発信器	5,524	95.5	5,310	106.0	1,824	90.5	2,082	108.8	1,978	73.2	5,884	88.7
受信器	3,670	82.4	3,789	105.3	1,380	106.3	1,268	96.9	1,523	99.3	4,171	100.7
調節器	3,321	83.9	3,339	108.2	1,144	94.5	1,119	99.4	1,155	84.3	3,418	92.2
操作器	921	85.3	661	71.1	264	66.7	290	70.9	354	83.1	908	73.8
伝送器 (変換器・中継器)	1,730	98.1	1,588	111.7	547	109.2	500	90.7	607	89.7	1,654	95.7
その他の工業計器	8,273	79.1	7,229	96.6	2,517	93.1	2,005	73.3	3,647	90.5	8,169	86.3
データ処理装置	2,349	89.4	1,618	143.8	1,276	332.3	1,038	167.7	973	111.8	3,287	175.5

◎補償導線の種類と記号、カラーコード

熱電対の種類	JISの記号	導線の材質	JIS C1610	BS 1843	ANSI MC96.1	DIN 43714
PR	WPR—	Cu/Cu, Ni	+ 赤 - 白 S 黒	+ 白 - 青 S 緑	+ 黒 - 赤 S 緑	+ 白 - 赤 S 白
CA	WCA—	Ni, Cr/NiAl	赤 白 青	茶 青 赤	緑 赤 白	緑/赤 緑 緑
CA	WCA—	Cu/Cu, Ni	赤 白 青	白 青 赤	黄 赤 黄	緑/赤 緑 緑
CRC	WCRC—	Ni, Cr/Cu, Ni	赤 白 紫	茶 青 茶	紫 赤 紫	—
IC	WIC—	Fe/Cu, Ni	赤 白 黄	黄 青 黒	白 赤 黒	青/赤 青 青
CC	WCC—	Cu/Cu, Ni	赤 白 茶	白 青 青	青 赤 青	茶/赤 茶 茶

編集後記

会報第2号をお届けします。会員の皆様から御批判や御意見、内容についての御注文等を事務局までお寄せ下さい。特に掲載資料について、できるだけ実際に役に立つものをと考えておりますので、御希望をおきかせ下さい。

本号から会員紹介欄をもうけましたが、編集委員が取材に訪問の節はよろしく御協力をおねがいします。

昭和52年1月発行 No. 2

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都品川区西五反田1-13-11(西村ビル)

電話 494-0671